

## － 大学生活や奨学金制度等に関する調査 －

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）のよりよい就職・採用の在り方を追求するための研究機関・就職みらい研究所（所長：栗田 貴祥）は、大学4年生および新卒入社3年目までの社会人に対して、大学時代の学生生活やアルバイト実施状況、奨学金制度の利用状況などを明らかにするため、調査を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

### 【奨学金制度の利用状況等について】

- 本調査での「奨学金制度」の利用者は36.1%で、利用している奨学金の種類は、給付型が36.8%、貸与型の無利子型は42.1%、有利子型は31.6%だった。
- 奨学金の利用用途は、「大学の学費（入学金、授業料）」が70.9%で突出し、次いで「授業で必要な教材費」29.6%、「生活費」22.9%が続く。
- 「奨学金制度」を利用する際の相談者は、「家族」が62.8%だが、相談者がいない、またはしなかった人が約2割である。
- 「奨学金制度」を利用する際の返済状況等への理解度について、「返済条件や方法」「返済額」は8割以上が理解していたが、「返済年」「返済するリスク（遅延など）」について、7割以上が理解していた一方で、2割強は理解していなかったようだ。
- 「奨学金制度」を利用することや奨学金を返済することへの不安について、それぞれの不安度は半数以上であった。
- 社会人の奨学金返済に対する負担感は、7割以上が負担に感じているようだ。

### 【大学時代の活動やコミュニケーションについて】

- 大学時代の活動やコミュニケーションについて、奨学金制度の利用・非利用者で見ると、力を入れたもののうち、最も高いのは両者ともに「大学の授業・ゼミ・研究室」で、次いで「アルバイト」である。「特にない」は、利用者は7.9%に対して、非利用者は17.7%と利用者を上回る。
- 大学時代の活動やコミュニケーションについて、経済的な理由で力を入れられなかったものは、奨学金制度の利用者・非利用者ともに「特にない」が最も高く、利用者が46.5%に対して非利用者は66.6%と、利用者の方が経済的な理由で力を入れられなかったことがある人が多かったと思われる。

### 【目次】

1) 「奨学金制度」の利用状況、利用している奨学金制度の種類、 利用した学年について	3
2) 奨学金の利用用途、利用する際の相談者について	4
3) 「奨学金制度」を利用する際の返済条件等への理解度について	5
4) 「奨学金制度」を利用することへの不安、奨学金返済の 見通しなどについて	6
5) 「奨学金制度」を利用する際に労力がかかったものについて	7
6) 「奨学金制度」を利用しない理由について	8
7) 「奨学金制度」および「大学の学費」への考えについて	9
8) 「給付型奨学金制度」を利用する際の重視度について	10
9) アルバイト実施状況、実施理由について	11
10) 1か月に使用できるお金の状況について	12
11) 大学時代の活動やコミュニケーション、大学生活の満足度について	13

### 【調査概要】

調査名	：大学生生活や奨学金制度等に関する調査		
調査目的	：大学時代の学生生活や奨学金制度の利用状況やアルバイト実施状況など、経済面含めて実態等を明らかにする		
調査対象	：2023年卒業予定の大学4年生および2020年から2022年3月大学卒業の現在正社員・正職員としての就業者（社会人）		
調査期間	：2022年9月21日～28日		
調査方法	：インターネット調査		
調査回答数	大学4年生	1,293人	（文系636人 理系518人 その他139人）
	社会人	1,103人	（文系523人 理系445人 その他135人）※文理等は在学時のもの

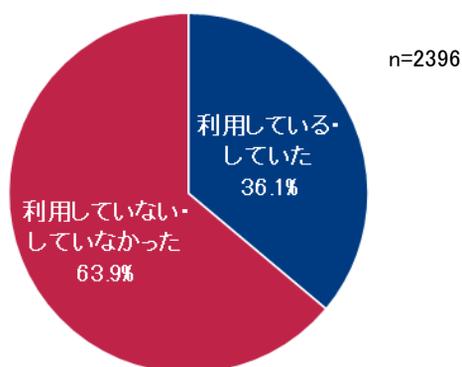
#### 《調査結果を見る際の注意点》

- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある。
- 回答数が50人未満は、参考値としてご覧ください。

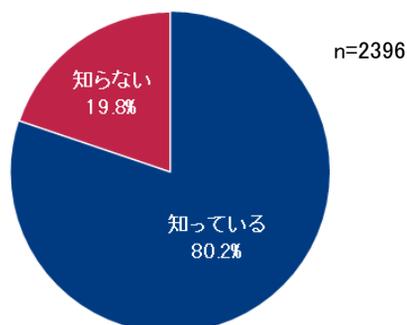
## 1) 「奨学金制度」の利用状況、利用している奨学金制度の種類、利用した学年について

「奨学金制度」の利用状況について、本調査では、利用者は36.1%であった。  
 利用している奨学金の種類は、給付型が36.8%、貸与型\_無利子型が42.1%、貸与型\_有利子型が31.6%である。  
 利用した学年については、大学1年生、2年生が約8割で、大学3年生は75.6%、大学4年生は71.6%となっている。

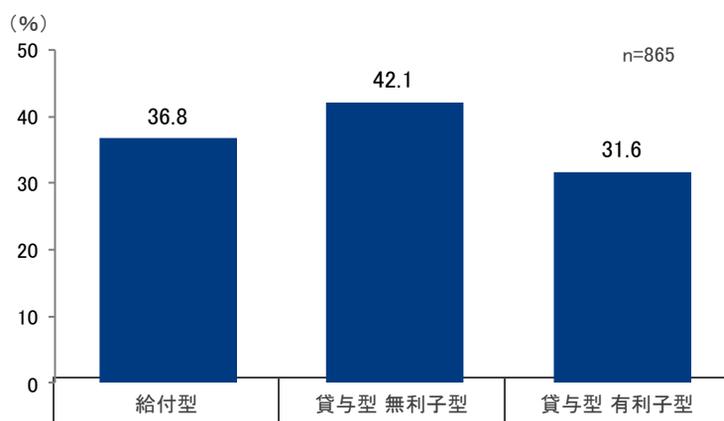
■「奨学金制度」の利用状況（全体／単一回答）



参考) 「奨学金制度」の認知状況（全体／単一回答）

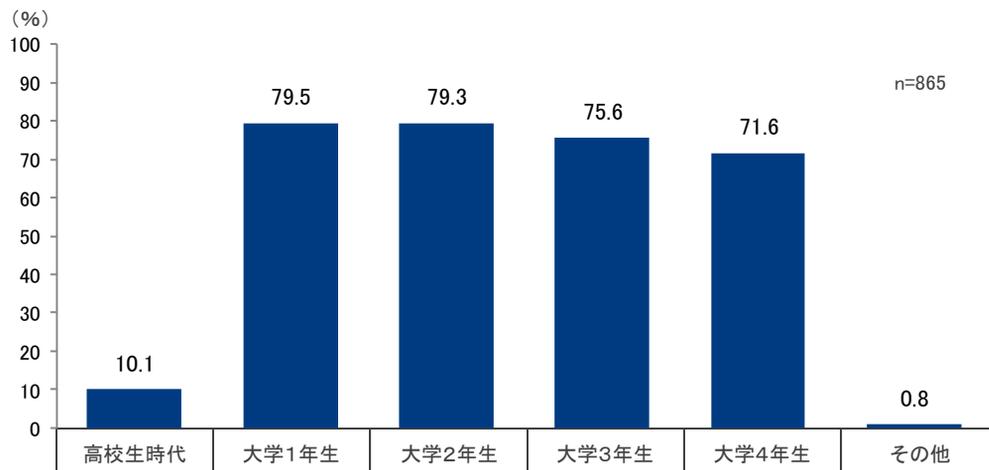


■利用している「奨学金制度」の種類（奨学金制度利用者／複数回答）



\* 給付型と貸与型の奨学金について  
 給付型 = 返済が不要な奨学金  
 貸与型 = 返済が必要な奨学金で、無利子  
 のものと有利子のもがある

■「奨学金制度」を利用した学年（奨学金制度利用者／複数回答）

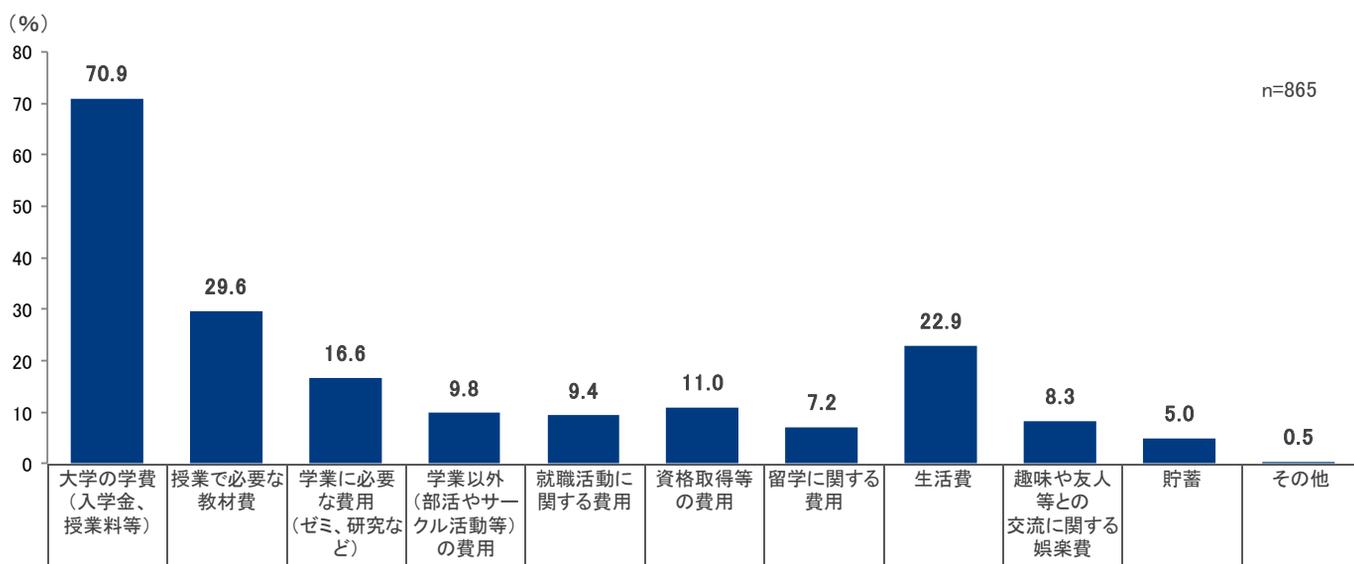


## 2) 奨学金の利用用途、利用する際の相談者について

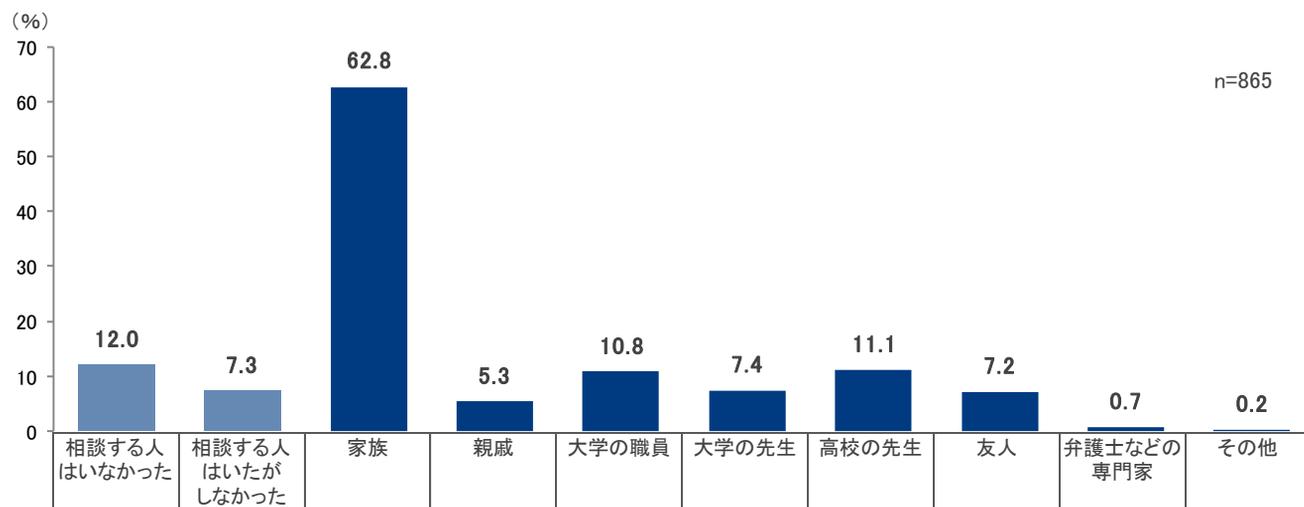
奨学金の利用用途は、「大学の学費（入学金、授業料等）」が約7割と突出しているが、「授業に必要な教材費」29.6%、「生活費」22.9%が続いている。

「奨学金制度」を利用する際の相談者について、2割近くは相談者はいなかったか、あるいはしなかったようだが、6割強は家族にしているようだ。

■ 奨学金の利用用途（奨学金制度利用者／複数回答）



■ 「奨学金制度」を利用する際の相談者（奨学金制度利用者／複数回答）



### 3) 「奨学金制度」を利用する際の返済条件等への理解度について

「奨学金制度」を利用する際に、返済条件などをどの程度理解していたか聞いたところ、「返済条件や方法」「返済額」について8割以上は理解していたと回答しているが、「返済年」は76.3%、「返済リスク（遅延など）」は78.6%と、8割をやや下回っている。

■ 「奨学金制度」を利用する際の返済状況等への理解度（奨学金制度利用者／各単一回答）

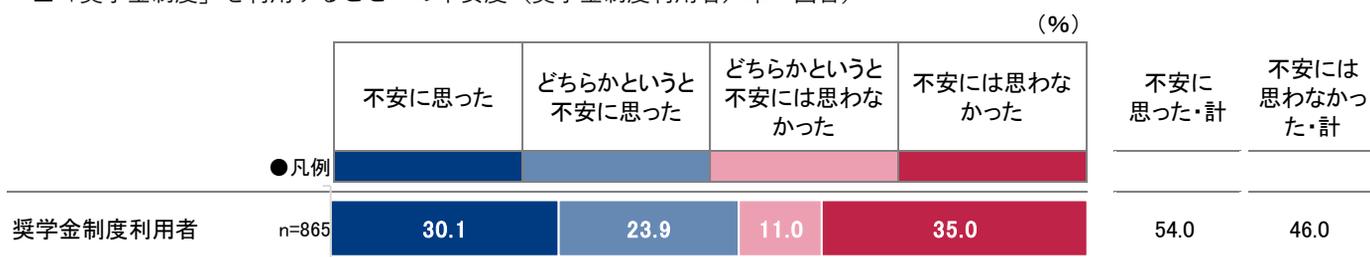
		(%)				理解していた ・計	理解していなかった ・計
● 凡例		理解していた	ある程度 理解していた	あまり 理解して いなかった	理解して いなかった		
返済条件や方法	n=865	49.0	33.5	13.8	3.7	82.5	17.5
返済額	n=865	44.0	36.8	14.9	4.3	80.8	19.2
返済年	n=865	41.8	34.5	18.8	4.9	76.3	23.7
返済リスク(遅延など)	n=865	42.4	36.2	15.5	5.9	78.6	21.4

#### 4) 「奨学金制度」を利用することへの不安、奨学金返済の見通しなどについて

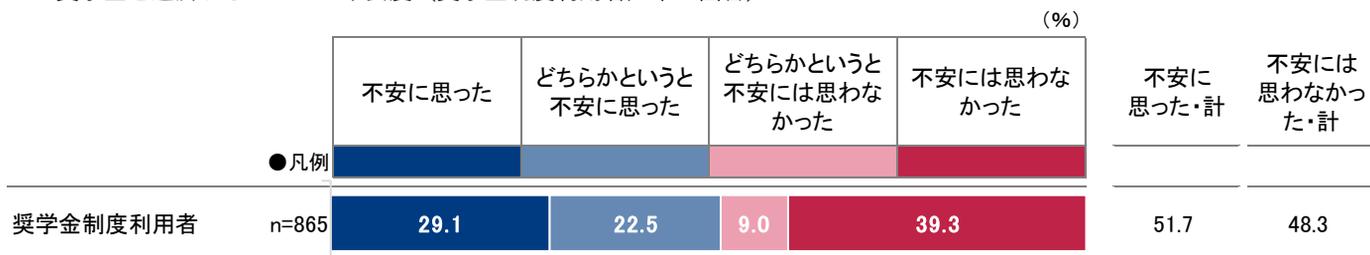
「奨学金制度」を利用することへの不安について、不安に思った人（不安に思った・計）は54.0%と半数を超えている。奨学金を返済することへの不安も、不安に思った人（不安に思った・計）は51.7%と、半数を超えている。

貸与型の奨学金制度利用者に、奨学金の返済の見通しが立っているかどうかを聞いた。大学4年生は、見通しが立っている（立っている・計）は63.0%で、立っていない（立っていない・計）は33.9%だが、すでに返済を終了している人（返済を終えている）は3.1%である。社会人は、見通しが立っている（立っている・計）は73.2%で、立っていない（立っていない・計）は19.5%だが、すでに返済を終了している人（返済を終えている）は7.3%である。また、社会人に、返済に際しての負担感を聞いたところ、負担感がある人（負担感ある・計）は72.5%と、負担に感じている人が多い。

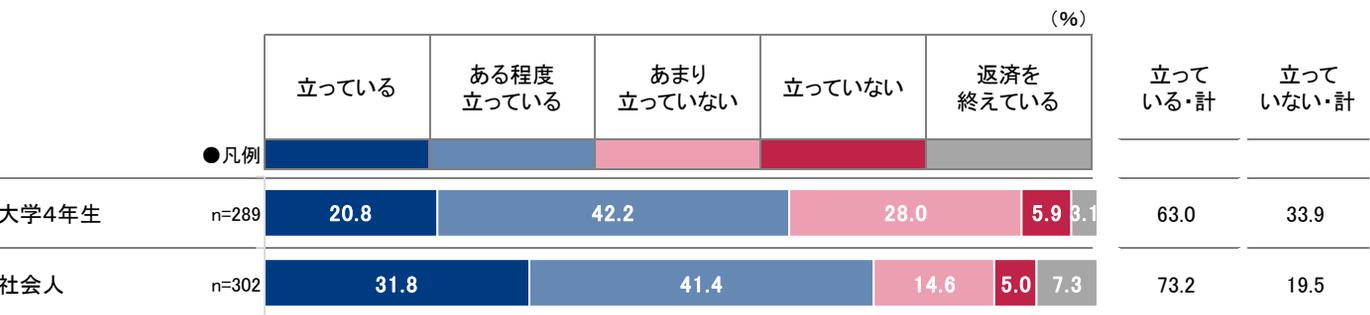
##### ■「奨学金制度」を利用することへの不安度（奨学金制度利用者／単一回答）



##### ■奨学金を返済することへの不安度（奨学金制度利用者／単一回答）



##### ■奨学金返済の見通し（貸与型奨学金制度利用者／単一回答）



##### ■奨学金返済に対する負担感（貸与型奨学金制度利用者のうち社会人／単一回答）



## 5) 「奨学金制度」を利用する際に労力がかかったものについて

「奨学金制度」の利用者に、制度を利用する際に労力がかかったものについて聞いたところ、約半数は特になく、労力がかかったものがあった人からは、申請の手続きに時間を要した、申請や更新などの手続きのわかりにくさ、保証人を探すのに苦労したなどが挙げられた。

### ■奨学金制度を利用する際に労力がかかったもの（奨学金制度利用者／自由回答） ( ) 内＝（所属／文・理／居住地域）

#### □「労力がかかったものは特になく」との回答者 ※コメントの約半数は「特になく」との回答

- |   |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○在学報告や継続願いを提出する必要があったが、特に苦ではなかった。<br/>(大学4年生/理系/関東)</li> <li>○労力がかかったものはなし。<br/>(大学4年生/理系/関東)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○特になく。人からお金を貰ったり借りたりするのに必要な過程を労力とは思わない。<br/>(大学4年生/文系/関西)</li> </ul> |
|---|---|

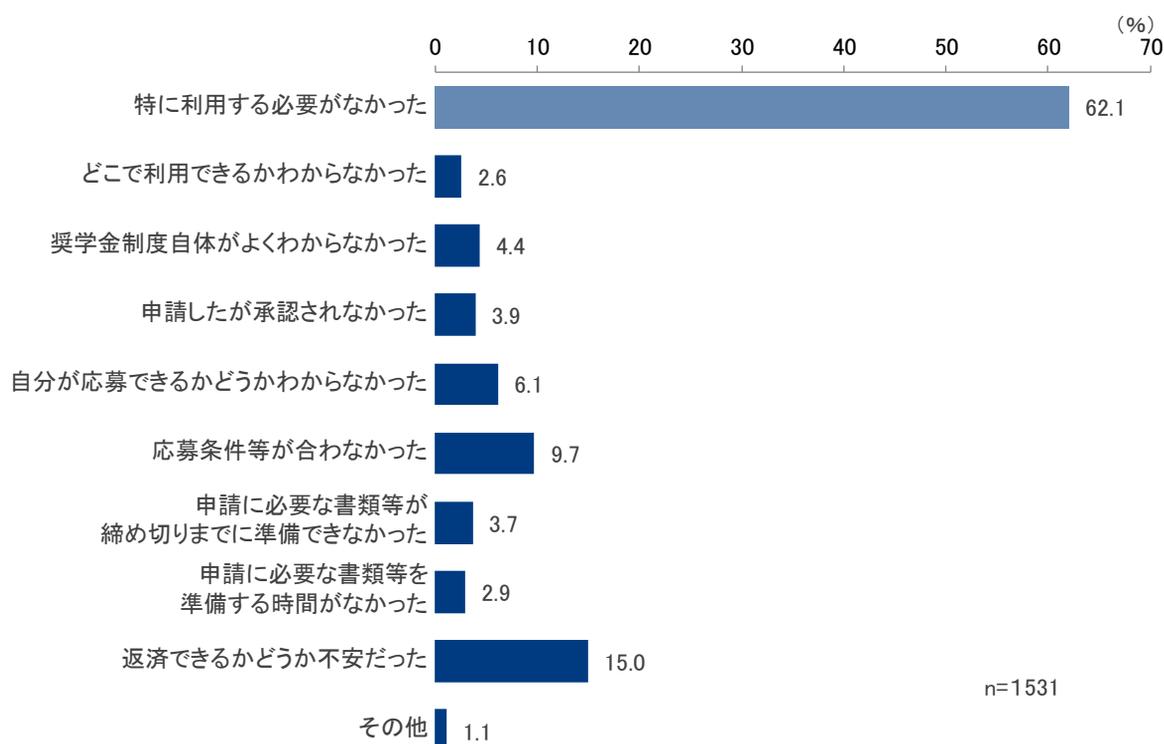
#### □「労力がかかったものがある」との回答者

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○作文提出がめんどくさかった。<br/>(大学4年生/文系/関東)</li> <li>○書類の申請。役所に必要な書類を取りに行くこと。<br/>(大学4年生/文系/関東)</li> <li>○申請の手続きが時間かかった。<br/>(大学4年生/文系/関東)</li> <li>○利息が低い所を探す。(大学4年生/文系/関東)</li> <li>○論文を毎年書くのが、書くことが同じになってしまう。<br/>(大学4年生/文系/関東)</li> <li>○申請の複雑さ。(大学4年生/理系/関東)</li> <li>○毎年インターネットで手続きをし直すこと。そのたびに書類や金銭、時間の計算が必要であったから。<br/>(大学4年生/理系/関西)</li> <li>○給付だったので、成績の維持もしたし、毎年の審査では小論文も書いた。<br/>(大学4年生/文系/中国・四国)</li> <li>○給与を証明する書類を揃えること。<br/>(大学4年生/文系/中国・四国)</li> <li>○申請と更新のための手続き。高校時代から大学入学時、進級時と、かなりの時間を費やした。<br/>(大学4年生/文系/九州)</li> <li>○奨学金審査に対する個人情報の公開。<br/>(大学4年生/理系/九州)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○登録が難しく、更新もわかりづらいところがあった。<br/>(大学4年生/理系/九州)</li> <li>○親と郵送でやり取りをしなければならなかったこと。<br/>(社会人/文系/北海道・東北)</li> <li>○自分で文章等を考えどのようにしたら通るのか。機関保証にするしないかでまた変わってくること。<br/>(社会人/文系/北海道・東北)</li> <li>○高い学力を維持すること。(社会人/理系/関東)</li> <li>○手続きに多少労力がかかりました。提出書類の作成や、証明書を取得すること。一番労力がかかったのは、保証人を探すことでした。<br/>(社会人/理系/関東)</li> <li>○無利子型の申請を通すためには、ある程度の学力が必要で成績優秀者でなければならず、毎日の勉強が大変だった。<br/>(社会人/理系/関西)</li> <li>○申請がわかりづらい。<br/>(社会人/文系/中国・四国)</li> <li>○毎年更新する際の文章を作るのに苦労した。<br/>(社会人/文系/中国・四国)</li> <li>○継続して奨学金を受けとるときに毎年理由を書いて提出しなければいけないことが大変だった。<br/>(社会人/理系/九州)</li> <li>○保証人を依頼するのが大変だった。<br/>(社会人/理系/九州)</li> </ul> |
|--|---|

## 6) 「奨学金制度」を利用しない理由について

「奨学金制度」を利用していない人に、奨学金制度を利用しない理由を聞いたところ、「特に利用する必要がなかった」が62.1%と最も高いが、「返済できるかどうか不安だった」15.0%、「応募条件等が合わなかった」9.7%となっている。理由の中で、「申請したが承認されなかった」が3.9%とあるが、利用したくても申請が承認されなかった人が一定数いた。

■奨学金制度を利用しない理由（奨学金制度非利用者／複数回答）



## 7) 「奨学金制度」および「大学の学費」への考えについて

「奨学金制度」および「大学の学費」についてどのように考えているかを奨学金制度を利用した人（奨学金制度利用者、以下利用者）と利用していない人（奨学金制度非利用者、以下非利用者）とで見えていく。

「奨学金制度」への考えについて、4つの項目で聞いている。

「給付型の奨学金制度を利用できるところが少ない」と思っている人（そう思う・計）は、利用者は59.4%で、非利用者は39.8%である。

「貸与型の奨学金返済について、出世払いのような返済方法などが選択できると良い」と思っている人（そう思う・計）は、利用者は57.8%で、非利用者は41.5%である。

「大学の学費」への考えについて、3つの項目で聞いている。

「日本の大学の学費（授業料や入学金など）は高い」と思っている人（そう思う・計）は、両者ともに半数以上であるが、利用者は68.3%と7割近くである。

「大学の学費は、学生自身が払うべきだと思う」と思っている人（そう思う・計）は、利用者は31.7%で、非利用者は20.4%である。

「大学の学費は、全額無償がよい」と思っている人（そう思う・計）は、利用者が62.1%に対して、非利用者は半数以下の45.3%である。

### ■ 「奨学金制度」への考え（全体／各単一回答）

		(%)						
		そう思う	どちらかというと思う	どちらとも言えない	どちらかというと思わない	そう思わない	そう思う・計	そう思わない・計
●凡例								
奨学金制度について気軽に相談できる場所がない	利用者 n=865	19.9	28.9	27.4	15.4	8.4	48.8	23.8
	非利用者 n=1531	13.6	22.9	37.2	15.1	11.3	36.4	26.4
給付型の奨学金制度を利用できるところが少ない	利用者 n=865	28.0	31.4	26.9	8.6	5.1	59.4	13.6
	非利用者 n=1531	16.4	23.4	41.0	10.7	8.6	39.8	19.3
給付型の奨学金制度を利用するには、厳しい応募条件があって当然だ	利用者 n=865	20.8	32.0	32.4	9.8	5.0	52.8	14.8
	非利用者 n=1531	13.8	23.3	42.4	12.6	7.9	37.1	20.5
貸与型の奨学金返済について、出世払い※のような返済方法などが選択できると良い	利用者 n=865	22.9	34.9	30.9	8.2	3.1	57.8	11.3
	非利用者 n=1531	13.7	27.9	41.8	9.6	7.1	41.5	16.7

※卒業後の収入などに応じて返済額や時期を調整できるような方法

### ■ 「大学の学費」に関する考え（全体／各単一回答）

		(%)						
		そう思う	どちらかというと思う	どちらとも言えない	どちらかというと思わない	そう思わない	そう思う・計	そう思わない・計
●凡例								
日本の大学の学費（授業料や入学金など）は高い	利用者 n=865	42.5	25.8	22.0	7.2	2.5	68.3	9.7
	非利用者 n=1531	28.2	24.0	34.8	7.9	5.1	52.2	13.0
大学の学費は、学生自身が払うべきだと思う	利用者 n=865	10.3	21.4	42.3	16.6	9.4	31.7	26.0
	非利用者 n=1531	6.9	13.5	48.4	19.7	11.5	20.4	31.2
大学の学費は、全額無償がよい	利用者 n=865	34.2	27.9	27.5	7.5	2.9	62.1	10.4
	非利用者 n=1531	21.9	23.4	37.0	10.5	7.2	45.3	17.7

\* 利用者 = 奨学金制度を利用している人 \* 非利用者 = 奨学金制度を利用していない人

## 8) 「給付型奨学金制度」を利用する際の重視度について

「給付型奨学金制度」を利用する際の重視度について10項目について聞いている。奨学金制度を利用した人（奨学金制度利用者、以下利用者）と利用していない人（奨学金制度非利用者、以下非利用者）とに分けて見ているが、利用者を中心にみていく。

10項目のうち、利用者が重視している（重視する・計）割合が6割以上のものは、「給付される金額が多い」「応募条件や資格が多様である」「審査・選考基準が具体的でわかりやすい」「他の奨学金制度との併用が可能かどうか」「給付金の使用用途が自由」の5項目。

この5項目のうち、非利用者で6割以上のものはないが、5割以上のものは、「給付される金額が多い」「応募条件や資格が多様である」「審査・選考基準が具体的でわかりやすい」の3項目で、この3項目がより重視する項目と言えるだろう。

■ 「給付型奨学金制度」を利用する際の重視度\_奨学金制度利用状況別（全体/各単一回答）

		重視度					重視する・計	重視しない・計
		重視する	やや重視する	どちらとも言えない	あまり重視しない	重視しない		
●凡例								
給付される金額が多い	利用者 n=865	33.6	33.5	25.5	6.4	0.9	67.2	7.3
	非利用者 n=1531	19.3	32.8	38.0	7.0	2.9	52.1	9.9
応募条件や資格が多様である	利用者 n=865	28.1	37.5	29.1	4.3	1.0	65.5	5.3
	非利用者 n=1531	16.1	35.9	38.3	6.9	2.7	52.0	9.7
応募・申請書類の種類が少ない	利用者 n=865	23.6	33.2	33.3	8.3	1.6	56.8	9.9
	非利用者 n=1531	14.6	29.1	43.8	8.8	3.8	43.7	12.5
募集開始から応募や申請の締め切りまでの期間が長い	利用者 n=865	20.5	35.8	32.1	8.8	2.8	56.3	11.6
	非利用者 n=1531	12.9	29.7	44.5	9.5	3.5	42.5	13.0
審査・選考基準が具体的でわかりやすい	利用者 n=865	30.3	35.7	26.7	5.8	1.5	66.0	7.3
	非利用者 n=1531	20.0	32.6	36.6	7.0	3.8	52.6	10.8
選考委員の氏名や所属が公表されている	利用者 n=865	16.4	26.2	37.2	14.6	5.5	42.7	20.1
	非利用者 n=1531	10.6	24.9	47.0	12.0	5.5	35.5	17.5
選考委員が多様(男女、職種など)である	利用者 n=865	17.6	28.2	36.6	12.3	5.3	45.8	17.6
	非利用者 n=1531	11.8	26.6	45.6	10.5	5.6	38.3	16.1
応募や申請の締め切りから合否連絡までの期間が短い	利用者 n=865	20.3	33.5	33.8	8.9	3.5	53.9	12.4
	非利用者 n=1531	12.4	30.0	44.8	8.6	4.2	42.4	12.8
他の奨学金制度との併用が可能かどうか	利用者 n=865	26.5	34.6	31.0	6.9	1.0	61.0	8.0
	非利用者 n=1531	14.3	30.8	44.5	7.1	3.3	45.1	10.4
給付金の使用用途が自由	利用者 n=865	28.4	33.3	30.1	6.5	1.7	61.7	8.2
	非利用者 n=1531	15.9	31.7	41.8	7.6	2.9	47.7	10.5

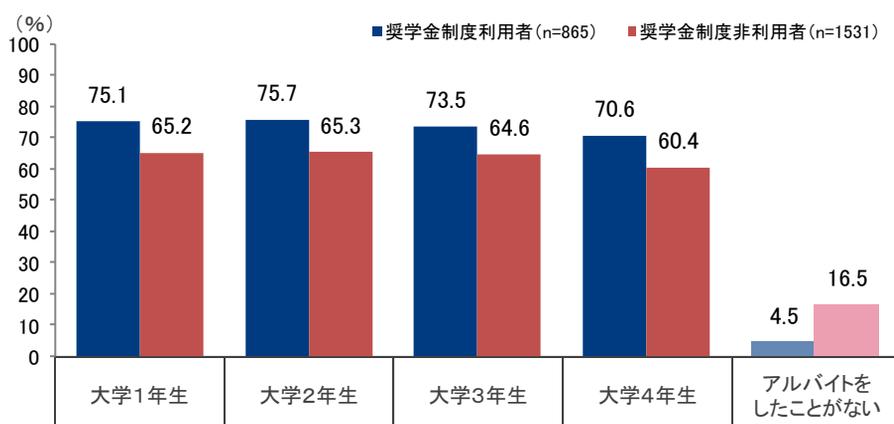
\* 利用者 = 奨学金制度を利用している人 \* 非利用者 = 奨学金制度を利用していない人

## 9) アルバイト実施状況、実施理由について

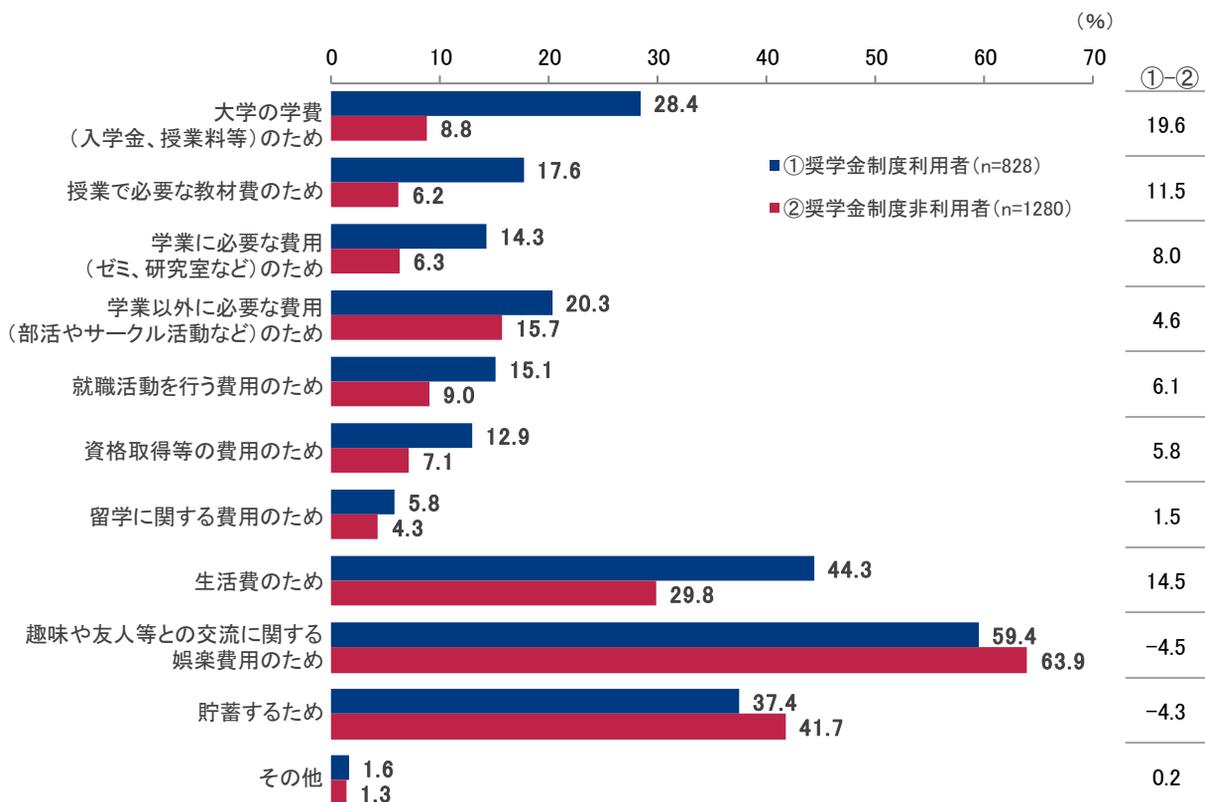
大学入学以降のアルバイト状況とアルバイト実施者の実施理由について、奨学金制度を利用した人（奨学金制度利用者、以下利用者）と利用していない人（奨学金制度非利用者、以下非利用者）と見ていく。大学入学以降のアルバイト実施状況は、アルバイトをしたことがない人が利用者は4.5%、非利用者は16.5%と、利用者の約95%がアルバイトを実施していたことになる。

アルバイトを実施した理由は、両者ともに「趣味や友人等との交流に関する娯楽費用のため」が最も高いことで共通しており、2番目と3番目については、順位は違えども「生活費のため」「貯蓄するため」が共通している。しかし、利用者と非利用者にて10ポイント以上の差（利用者－非利用者）があるのを見ると、「大学の学費（入学金、授業料等）のため」（19.6ポイント）、「生活費のため」（14.5ポイント）、「授業に必要な教材費のため」（11.5ポイント）だが、これら以外でも学業に関するものについて利用者の方が上回っており、アルバイト収入から充てている様子が見える。

■大学入学以降のアルバイト実施状況（全体／複数回答）



■アルバイト実施理由（アルバイト実施者／複数回答）



## 10) 1か月に使用できるお金の状況について

1か月に使用できるお金の状況について、奨学金制度を利用した人（奨学金制度利用者、以下利用者）と利用していない人（奨学金制度非利用者、以下非利用者）とで見えていく。

利用者は、余裕がある（余裕がある・計）は46.4%で、余裕がない（余裕はない・計）は53.6%と、余裕がないの方が上回っている。

一方、非利用者は、余裕がある（余裕がある・計）は52.2%で、余裕がない（余裕はない・計）は47.8%と、余裕があるの方が上回っており、利用者の状況と逆転している。

### ■ 1か月に使用できるお金の状況（全体／単一回答）

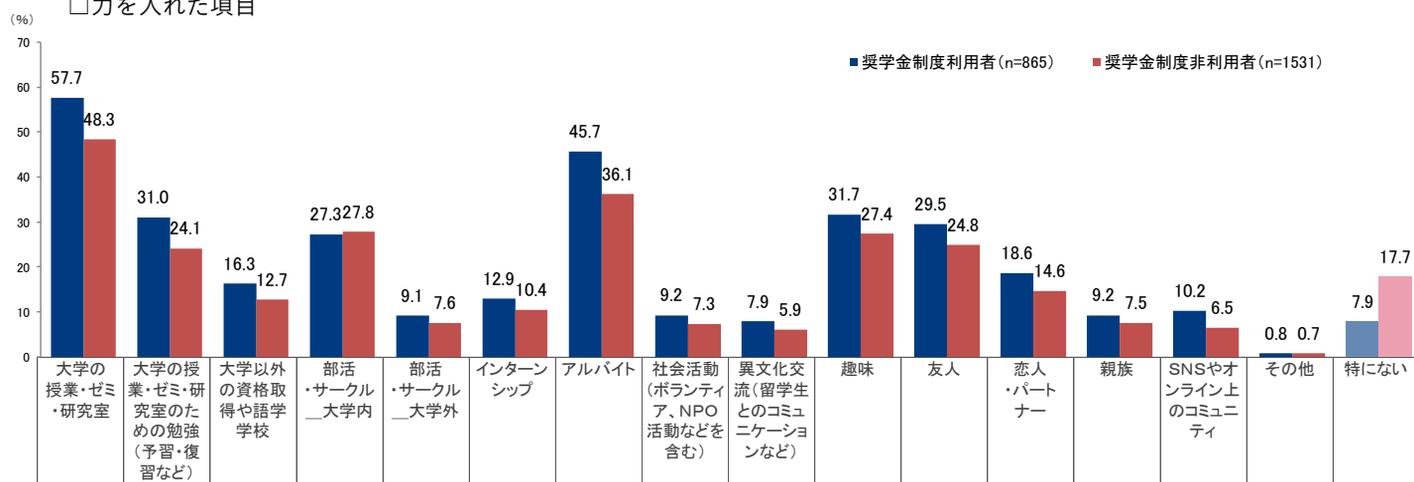
		(%)					
		余裕がある	多少 余裕がある	あまり 余裕はない	余裕はない	余裕が ある・計	余裕は ない・計
●凡例							
奨学金利用者	n=865	12.8	33.5	35.6	18.0	46.4	53.6
奨学金非利用者	n=1531	16.3	35.9	29.4	18.4	52.2	47.8

## 11) 大学時代の活動やコミュニケーション、大学生生活の満足度について

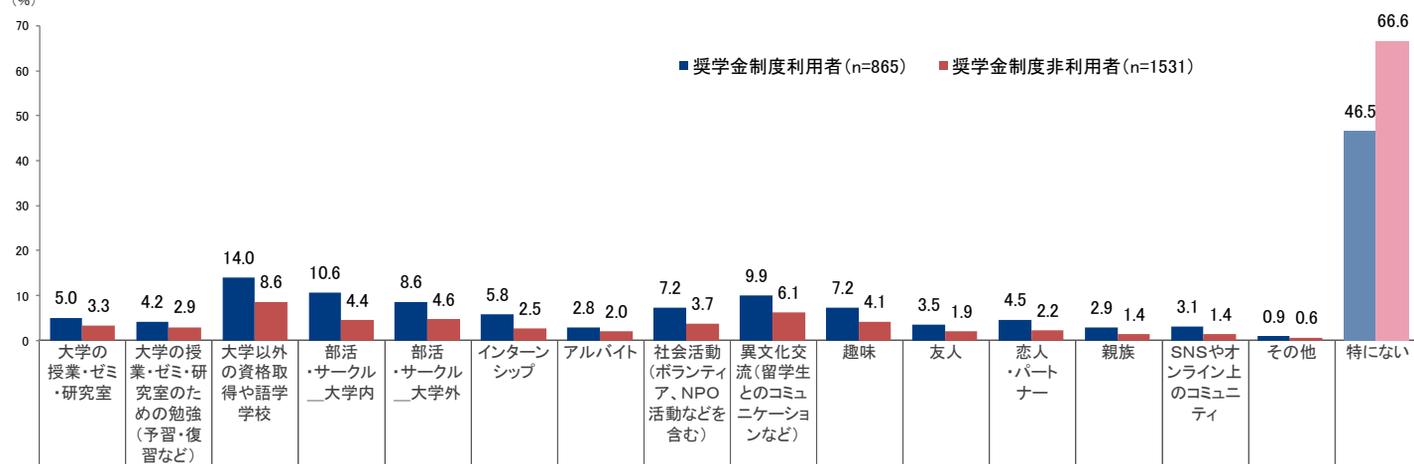
大学時代の活動やコミュニケーションについて、奨学金制度を利用した人（奨学金制度利用者、以下利用者）と利用していない人（奨学金制度非利用者、以下非利用者）と見ていく。  
 力を入れたものについて上位3項目を見ると、2番目までは両者共通しており、1番目「大学の授業・ゼミ・研究室」、2番目「アルバイト」で、3番目は、利用者は「趣味」、非利用者は「部活・サークル\_大学内」である。「特にない」は、利用者が7.9%に対して非利用者は17.7%と、10ポイント近く非利用者が上回っている。また、経済的な理由で力を入れられなかったものを見ると、「特にない」が両者ともに最も高く、利用者は46.5%で、非利用者は66.6%と、利用者の方が力を入れられなかったことがある人が多かったと思われる。  
 力を入れられなかったものは、「特にない」を除くと、1番目は両者共通して「大学以外の資格取得や語学学校」。2番目は、利用者「部活・サークル\_大学内」、非利用者「異文化交流（留学生とのコミュニケーションなど）」となっている。  
 大学生生活の満足度を見ると、両者ともに満足（満足・計）が6割以上である。

### ■大学時代の活動やコミュニケーションについて（全体／複数回答）

□力を入れた項目



□経済的な理由で力を入れられなかった項目



### ■大学生生活の満足度 奨学金制度利用状況別（全体／単一回答）

		満足度 (%)					満足・計	不満・計	
		満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満			
●凡例									
奨学金制度利用者	n=865	32.5		29.6	19.8	9.9	8.2	62.1	18.2
奨学金制度非利用者	n=1531	29.3		32.7	21.6	9.7	6.7	62.0	16.5